



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	フィクションをリアルで体験する科学イベントの実践と評価
Author(s)	渡辺, 謙仁; 田邊, 鉄
Relation	日本教育工学会第30回全国大会ポスター発表, 2014年9月19日-21日, 岐阜大学, 岐阜市.
Issue Date	2014-09-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57024
Type	conference presentation
File Information	jsetGihuWatanabePosterHusca.pdf, ポスター



渡辺謙仁* 田邊鉄**

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院* 北海道大学情報基盤センター**

日本教育工学会第30回全国大会(2014年9月19日～21日@岐阜大学)

あらまし

フィクションにおいて、天体観測が過剰とも思えるほど美しく表象される背景として、天体観測や天文学が多くの人々にとって身近でなさすぎることが考えられる

北海道洞爺湖町で開催されたTOYAKOマンガ・アニメフェスタ2014の2日間(6月21・22日)、フィクションで描かれる天体観測をリアルで体験できる「リアル天体観測」会を開催した

昼の部の参加者に対する質問紙調査の結果、天体観測が身近でない人々の天文イメージを揺さぶるために、このような会が有効であることなどが分かった

背景と目的

先行研究

- 大学初年次学生を対象とした分野別科学のイメージ調査(豊沢ほか 2011)
 - 「美しさ」「広大さ」「面白さ」といった次元において天文学のイメージは他分野と比べて特異に強い
 - 天文学の研究プロセスや研究に関わる人物に関するイメージは明確でない
- 大学の天文部員を対象とした天文活動への興味関心などの調査(河井・高垣 2011)
 - 天文イメージの形成にとってメディアの役割が等閑視できない

美しすぎる天体観測のメディア表象

天文学が
身近で
なさすぎる

美しすぎる
天文
イメージ

美しすぎる
天体観測の
メディア表象

リアル天体観測
で
再帰的構造を
揺さぶる

実践の概要

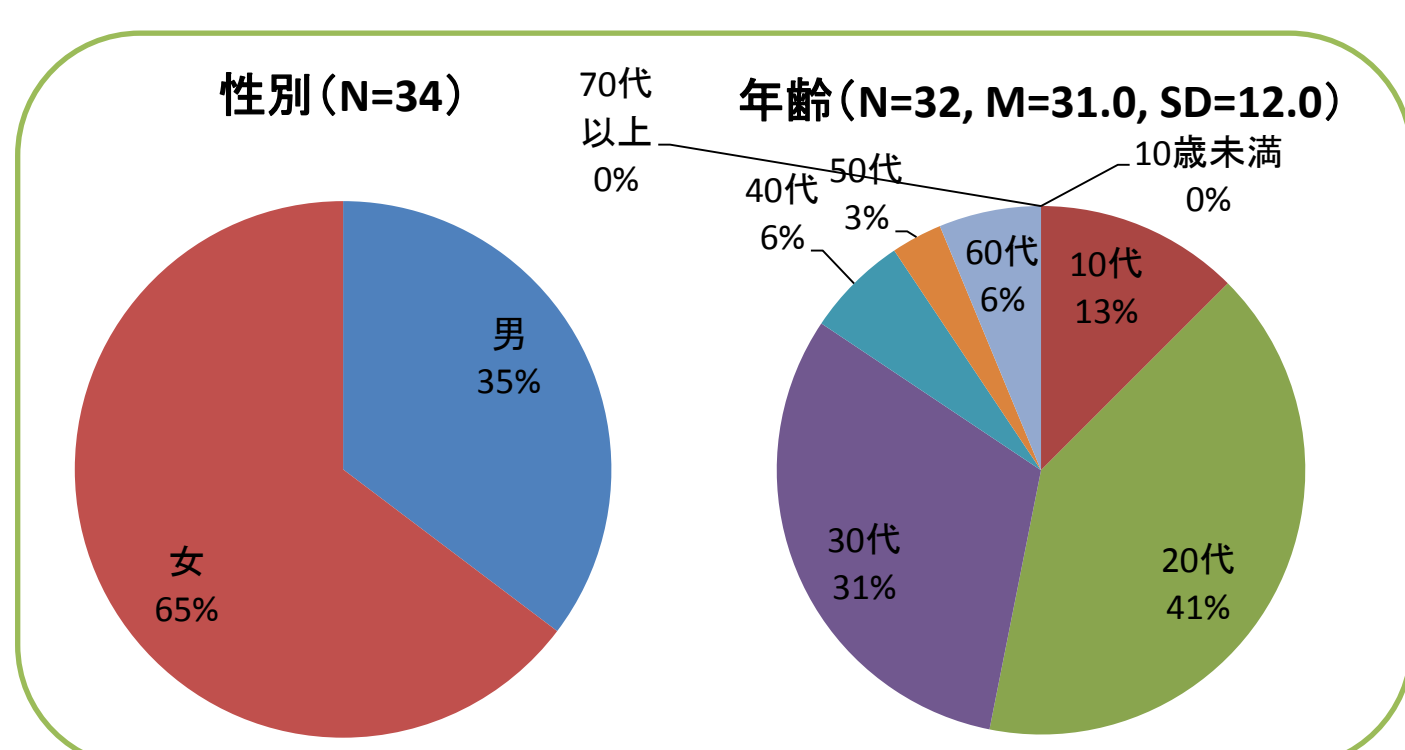
コスプレイヤー等の
アニメファンが多く集まる
TOYAKOマンガ・アニメフェスタ
という状況

君の知ってる物語

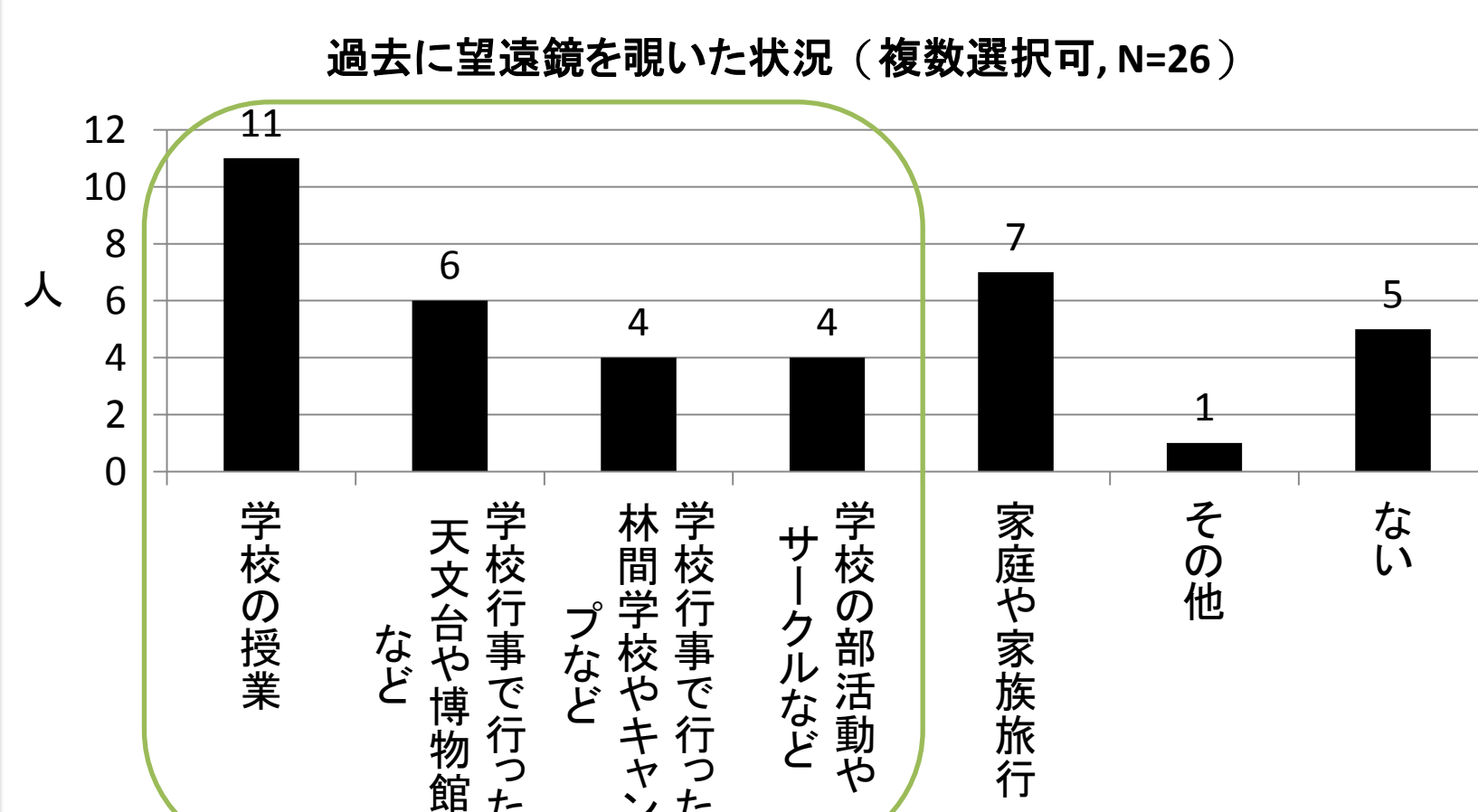


コスプレ等でアニメの天体観測シーンを
再現することで、アニメファンの
「拡張現実的な想像力」(宇野・濱野 2012)に訴求

参加者に対する質問紙調査の結果

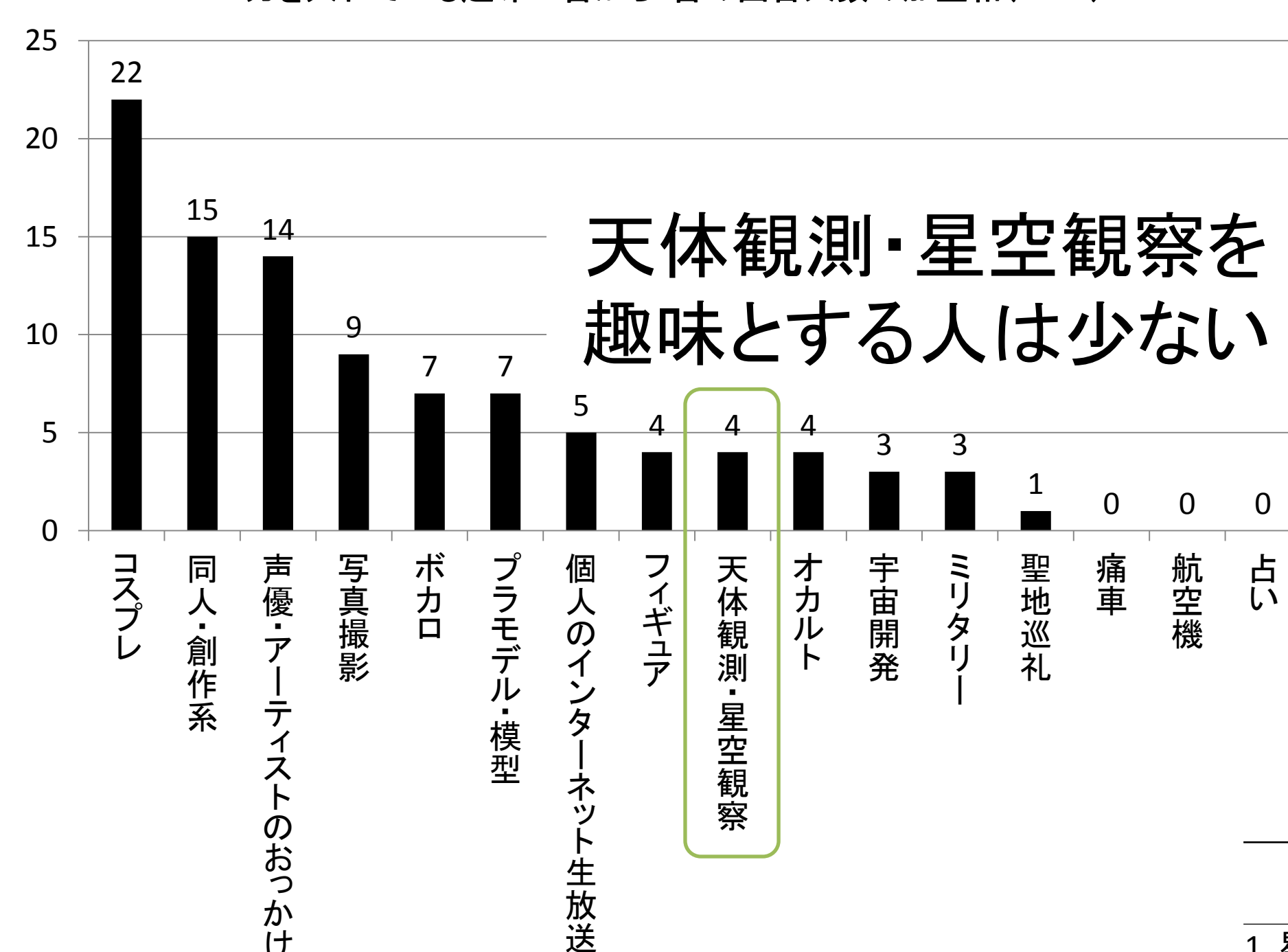


若い女性が多い



学校関連の活動が原イメージに関係?

力を入れている趣味:1番から3番の回答人数の加重和(N=17)



第Ⅰ因子と第Ⅲ因子が高相関

このような会は天文イメージを
揺さぶるのに有効

天体観測や星空のシーンが印象に残っているコンテンツ(自由記述, N=12)

	作品名
小説	
ライトノベル	
歌	ジャングルスマイル『おなじ星』, BUMP of CHICKEN『天体観測』, 『君の知らない物語』, 『Starry Heavens』, 『メテオ』, 『プラネタリウム』, 『射手座午後九時Don't be late』
マンガ	『星のひとみのシルエット』, 『夏のロケット』
アニメ	『宇宙戦艦ヤマト』, 『マクロス』, 『化物語』
ゲーム	
実写作品	明石の天文の人がくれた星の写真
その他	

視覚に訴えるコンテンツや、メロディと共に繰り返し
聴いたり歌ったりするコンテンツが印象に残る

感想評価項目の因子分析結果(5件法, プロマックス回転後の因子負荷量, N=21)

	平均値	標準偏差	因子			共通性
			I. 会自体の評価	II. やりたいこと	III. 天文イメージ	
1. 星がよく観えた	4.0	1.3	.99	-.24	.07	.84
10. 天体観測は楽しかった	4.1	1.0	.94	-.02	.10	.98
2. コスプレは出来がよかった	3.6	0.9	.78	.15	-.33	.51
3. また天体観測の会に参加したい	3.6	1.0	.54	.34	.29	.98
6. 『極黒のブリュンヒルデ』が見たくなった	3.2	1.3	.03	.85	-.10	.70
5. 望遠鏡や双眼鏡が欲しくなった	3.3	1.0	-.02	.53	.14	.34
7. コスプレが楽しくなった	3.3	1.5	-.09	.52	-.08	.21
8. 天体観測をより身近に感じられた	3.3	1.2	-.09	.11	.74	.53
9. コスプレは天体観測のイメージを悪くする(逆転)	2.4	1.3	.05	.18	-.66	.36
4. 星や宇宙について知りたくなった	3.6	0.9				
因子間相関				.59	.65	.35